



母乳育児 いのちの礎いしずえ

WABA | 世界母乳育児週間

1-7
AUG
2018

母乳で育てることで、人生のスタートの格差をなくし、だれでもが公平に人生を始めることができます。
母乳育児は、世界中の女性と子どもの心身の健康、および生存の可能性を高めます。

2018年世界母乳育児週間の目標

情報提供する

良質な栄養、食糧安全保障、
貧困の削減と母乳育児との
関連について人々に情報提
供する



揺るぎないものとする

母乳育児を「いのちの礎いしずえ」
として、揺るぎないもの
とする



協働する

個人や団体と連携してもつ
と影響力を持つように協働
する



啓発する

良質な栄養、食糧安全保障、
貧困の削減という課題の一部
として、母乳育児への意識を
高めるよう行動を啓発する



持

持続可能でより平等な世界は、貧困を終わらせ、地球を保護し、すべての人の繁栄を保証する努力によって始まります。栄養不良、食糧の不安定供給、貧困は何百万もの人に影響を及ぼし、持続可能な開発を阻害します。母乳育児はすべての人の人生のスタートを公平にすることができ、子どもと女性の健康と生存の礎いしずえとなります。

母乳は子どもの栄養面と免疫面での必要を完全に満たすようにできています。どのような国に生まれようと、母乳育児は子どもに栄養を与える自然で最適な方法であり、母子の絆を深めます。多くの母親が母乳育児を始めますが、母乳だけで育つ生後6カ月の赤ちゃんは40%、2歳まで母乳を飲む赤ちゃんが45%と、半数に満たないのです。さらに、地域や国によって母乳を与えている割合には差があります。最適な母乳育児*ができるようになれば、毎年82万3000人の子どもと2万人の母親の命が助かります。母乳をまったく飲まないことと認知機能の低下には関連があり、毎年約3020億円の経済損失につながります。

【訳注】生後6ヵ月まで母乳だけを与えて2歳かそれ以上まで母乳育児を続けること。

女性たちが母乳で育てられるような温かい環境を作り出すためには、多くの乗り越えるべき障壁があります。保健医療サービス、家族、地域での支援システム、職場、雇用の方針が母乳育児を応援するようなものではないことが挙げられます。母乳代用品の強硬なマーケティングが状況を悪化させています。

2025年までに少なくとも50%が母乳だけで育てられるようになるという世界保健総会で決議した到達目標を達成するためには、皆で

一致した行動が必要とされています。かなりの進展があるものの、政策の存在とその実施のギャップを埋めるには、まだしなければいけないことが多く残されています。私たち皆の力で、良質な栄養、食糧安全保障、貧困の削減のために重要な役割を担う母乳育児の権利アドボカシーを擁護することができます。

2018年の世界母乳育児週間の焦点は：

1. すべての種類の栄養不良を防ぐこと

栄養不良とは、低栄養と過体重やそれに伴う非感染性疾患 (Non-communicable diseases: NCDs)*の両方を指します。こうした「栄養不良の二重負荷」は、短期的にも長期的にも健康に深刻な影響を与えます。

【訳注】「非感染性疾患 (NCDs)」は、「慢性疾患」としても知られ、長期間罹患する傾向があり、遺伝的、生理的、環境的、習慣的因子などが複合的に関与して発症する。主要な非感染性疾患には心臓発作や脳卒中のような心血管障害、がん、慢性閉塞性呼吸障害や気管支喘息といった慢性呼吸器疾患、糖尿病などがある。
<http://www.who.int/en/news-room/fact-sheets/detail/noncommunicable-diseases>より訳出

2. 危機的な状況においても食糧安全保障が担保されること

食糧安全保障とは、いつでも皆に食べ物が手に入るということを含みます。それは、食べ物の手に入りやすさ、価格、さまざまな危機的状況(飢餓、自然災害、紛争、環境汚染)によって影響を受けます。

3. 貧困の連鎖を絶つこと

貧困は飢餓や栄養不良などのさまざまな要因に影響されます。飢餓は貧困家庭を負のスパイラルに陥らせ、貧困の連鎖を絶ち切ることを難しくさせます。

母乳育児はすべての種類の栄養不良を防ぎ、乳幼児の食糧安全保障を担保する助けになるので、人々や国々を飢餓と貧困の連鎖から救い出します。それゆえに、「いのちの礎いしずえ」なのです。母乳育児の保護・推進・支援は、より持続可能な世界を作り出すためにとても重要です。

www.worldbreastfeedingweek.org

WABA | WORLD BREASTFEEDING WEEK (WBW) 1-7 August 2018

すべての種類の 栄養不良を防ぐこと



最適な母乳育児が

一生涯にもたらす健康への効果

最適な母乳育児は多くの効果があるという
強い科学的根拠がある：

- 母親：出産間隔を空け、乳がん・卵巣がんのリスクを減少させ、高血圧のリスクを減らす
- 子ども：感染症と闘い、下痢の回数や重症度を減らし、呼吸器感染症や急性中耳炎を減らし、むし歯や不正咬合を予防し、認知機能を上げる

危機的な状況においても 食糧安全保障が 担保されること



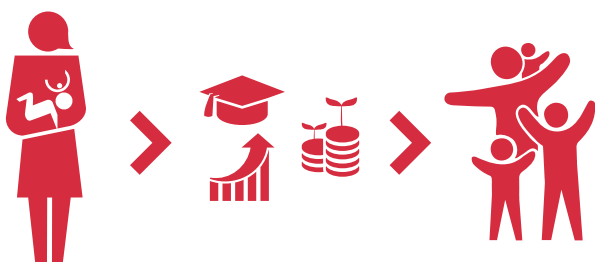
最適な乳幼児栄養法

最適な母乳育児は女性と子どもの一生涯の心身の健康にとっても重要である。

世界保健機関(WHO)と国際連合児童基金(UNICEF、ユニセフ)が推奨するのは：

- 生後1時間以内に早期から母乳育児を開始すること
- 生後6か月間は母乳だけで育てること
- 生後6か月になったら栄養十分で安全な補完食(離乳食)を開始し、2歳かそれ以上まで母乳育児を続けること

貧困の連鎖を 絶つこと



母乳で育てない場合に

かかる経済的^{コスト}環境的費用

母乳で育てない場合にかかる短期および長期的^{コスト}費用は、
以下のように社会全体に影響を与える：

- 母乳を与えられない赤ちゃんはIQが低くなり、よい教育を受ける機会が減り、したがって生涯収入が低くなる
- 母乳を与える割合が低いと病気が増え、保健医療サービスや治療にかかる費用が増す
- 人工乳の製造、包装、保管、流通、調乳は環境に損害を与える

^{スタンディング}
低体重と、慢性栄養障害(年齢に対して身長が低い)につながる栄養不良は、低所得の国でよく見られると長い間認識されてきました。
こうした問題に加え、実際には、過体重やそれともなう非感染性疾患は、高所得の国に比べて低所得の国のほうが、より病気の負担が大きいのです。母乳育児の欠如は、子どもの低体重と過体重の両方に関連していると言えます。こうした栄養不良の二重負荷は、短期的にも長期的にも健康に大きな影響を及ぼします。

子どもの栄養不良、特に急性^{ウェスティング}栄養障害(身長に対して体重が小さい)は、低所得の地域における人工栄養が原因であることがよくあります。急性^{ウェスティング}栄養障害は、例えば重篤な下痢を予防することで、間接的に防ぐことができます。母乳で育てることに加え、補完食の開始時期、量、回数といったさまざまな要因が子どもの最適な成長と発達を支えます。過体重や肥満といった別の種類の栄養不良のリスクは、子

国連は食糧安全保障を「生産的で健康的な生活を送るための栄養を満たす、十分に安全で栄養価の高い食糧を、すべての人がいつでも物理的・社会的・経済的に得ることができること」と定義しています。

人間の発達の基礎ができる「最初の1000日間」(妊娠してから満2歳)^{*}が非常に重要です。母乳育児は乳児に、人生のいちばん初めから食べ物を安定的に供給し、家族全員の食糧安全保障に寄与します。最適な乳幼児栄養を保護・推進・支援するための方針には、すべての妊娠中と授乳中の女性の食糧安全保障を含めるべきでしょう。

【訳注】妊娠中から満2歳までの母子の栄養がその後の人生の健康の要となるため、その重要性を喚起するために用いている表現

母乳育児は、人の健康と自然のエコシステムとの深い関連を示す最も重要な例です。母乳は環境に安全でやさしい、自然で再生可能な食べ物です。なぜなら、母乳は汚染を起こさず、包装も不要で、ごみも出さずに生産され、消費者に届けられるからです。人工乳は対照的に、さまざまな面で天然資源を枯渇させ、環境を汚染し、気候変

持続可能な世界は、あちこちにあるさまざまな形の貧困をすべて終結させることから始まります。 Pinstруп-Andersenによれば、「貧しい人がだれでも飢餓状態であるとは限らないが、飢餓に苦しむ人はほとんど皆貧しい。何百万もの人が飢餓と栄養不良の状態にいるのは、単に十分な食糧を買うお金がなく、栄養価の高い食べ物を買うお金がなく、栄養のある食糧を生産するために必要な農業器具を購入するお金がないからである」ということです。飢餓と貧困が相まって悪循環を起こし、人々が自分の可能性を最大限に実現することができなくなります。

母乳で育てることで、人生のスタートの格差をなくし、だれでもが公平に人生を始めることができます。

母乳で育てられることで何百万人もの子供が生存し、成長し、より健康でより豊かな未来に向かって道を進むことができます。母乳は乳

もが飲む人工乳の量が多ければ多いほど増加します。これは所得に関係なくすべての地域でよく見られています。

母乳育児は母親の栄養に関しても意味があります。母乳を飲ませると母親が栄養失調になり体重が減るといった思い込みは妥当なものではありません。

母親が十分な栄養を取るだけでなく、最適な出産間隔と避妊法を手に入れることが栄養不良を予防する主な要因となります。母乳だけで育てることで母親は妊娠前の健康な状態の体重に戻りやすくなり、糖尿病にかかるリスクが減る可能性があります。

最適な母乳育児をすることで母子ともに生涯健康でいられ、すべての種類の栄養不良を予防する助けになります。

動にかかわるため、多量の環境フットプリント^{*}を占有します。

【訳注】人間一人が生きるうえで、地球の面積をどれくらい自分専用に使っているかという、環境への負荷を表す指標

酪農は温室効果ガスを産出します。さらに、人工乳の生産、包装、保存、流通、調乳には、化石燃料と水を多量に使います。それゆえ、人工栄養は温室効果ガスの排出の原因となり、水を枯渇することでさらなる気候変動を引き起こします。

気候変動は自然災害と人道的危機につながります。災害時には粉ミルクの支給が途絶え、不衛生な状況に陥ることが多く、母乳で育てることが最も安全な選択肢となります。

母乳育児は、危機的状況においてさえ食糧安全保障を担保し、温暖化防止に貢献します。母乳育児の保護・推進・支援は私たちの地球と人類の健康のために非常に重要です。

幼児にとって栄養面でも免疫面でも最も効能の高い食べ物であり、ほかの何にもまして脳の発達を促す食べ物なのです。母乳育児は子どもの認知発達とIQを促進し、より教育効果を上げることができ、職場で活躍し、生涯所得も高くなります。

子ども時代の脳の発達の大事な時期を逃すことで、認知機能と経済の損失は多大なものになる可能性があります。母乳育児は、世界中の女性と子どもの心身の健康を改善する、国の発展と未来の礎^{いしづえ}なのです。母乳育児は人々の格差を劇的に解消し、貧困の連鎖を絶つことができます。

世界中で、5歳未満の

1億5500万人 

スタンディング
の子どもが慢性栄養障害、5200万人が急性栄養障害、
4100万人が過体重です。(1)



低所得国では、母乳で育てられた赤ちゃんは、まったく母乳を飲んでいない赤ちゃんに比べて、生後1年以内に死亡するリスクが

21%

低いことがわかりました。(2)

母乳育児は人工栄養に比べて
過体重や肥満のリスクを

約10%



減らすと見積もられています。(3)

(18歳以上の)成人は、

19億人以上



が過体重です。その中で6億5000万人が肥満です。(1)

1. Child malnutrition. (n.d). Retrieved from <http://www.who.int/gho/child-malnutrition/en/>

2. Akst, J. (2015). Breast Milk and Obesity: A study links components of a mother's milk to her infant's growth. Retrieved from <https://www.the-scientist.com/>


3. Sankar, M. J. et al. (2015). Optimal breastfeeding practices and infant and child mortality: A systematic review and meta-analysis. *Acta Paediatrica*, 104, 3-13

世界中で **8億1500万人**

が慢性的食糧不足と栄養不良で、
大多数(4億8900万人)が
紛争地帯に住んでいます。(4)

世界の人工乳市場は、2019年までに

約706億ドル

に達するだろうと 
考えられています。(5)

たった1キロの粉ミルクを
生産するために

4000リットル

以上の水が必要です。(6)

1%

母乳の質と量は、極端に栄養不良の女性
(たった1%にしか該当しません)を除いて、
女性の栄養状態にほとんど影響を受
けません。(7)

世界中には **約6000万人**

の難民や避難民がいて、多くがさまざまな種類の栄養不良のリスクのある幼児と女性であり、母乳育児をすることで利益があります。(8)



4. Food and Agriculture Organization of the United Nations. (n.d.). How close are we to #ZeroHunger? Retrieved from <http://www.fao.org/state-of-food-security-nutrition/en/>

5. Save the Children. (2018). Don't push it. Why the formula milk industry must clean up its act. Retrieved from <https://www.savethechildren.org.uk/content/dam/gb/reports/health/dont-push-it.pdf>

6. Linnecar, A. et al. (2014). Formula for disaster. Weighing the Impact of Formula Feeding vs. Breastfeeding on Environment. Retrieved from <http://ibfan.org/docs/FormulaForDisaster.pdf>

7. During disasters, breastfeeding's advantages shine. (n.d.). Retrieved from <https://www.emnonline.net//breastfeedingadvantagesdisasters>

8. Nutrition in emergencies. (n.d.). Retrieved from http://www.wpro.who.int/nutrition_wpr/nutrition_emergencies/en/

発展途上の地域の

5人に1人 

がいまだに1日に1.90ドル未満で暮らしています。(9)



母乳育児は国際保健における
もっとも効果的な投資の1つです。

母乳育児に**1ドル投資**するごとに
35ドルの経済的利益を生み出します。(10)

子どもの母乳育児期間が
短くなることは、

IQ2.6の損失

と関連します。



母乳で育てられないことは、
年間**約3020億ドル**
つまり全世界の国民総所得の0.49%の
経済損失と関連があります。(10)



9. Poverty - United Nations Sustainable Development. (n.d.). Retrieved from <https://www.un.org/sustainabledevelopment/poverty/>

10. Nurturing the Health and Wealth of Nations: The Investment Case for Breastfeeding. <http://www.who.int/nutrition/publications/infant-feeding/global-bf-collective-investmentcase.pdf>



世界母乳育児行動連盟(WABA)は世界規模で母乳育児を保護・推進・支援する個人と組織の国際的なネットワークです。WABAの活動は、「イノチェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出す10のリンク(連結)」、「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づいています。

WABAは国際連合児童基金(UNICEF、ユニセフ)の諮問資格を有し、また、国際連合経済社会理事会(ECOSOC)の特殊協議資格をもつNGOです。

WABAは毎年世界母乳育児週間のキャンペーンをコーディネートしています。WABAは多くの個人や団体と密接に協働しています。協働のパートナーは、母乳育児医学アカデミー(ABM)、乳児用食品国際行動ネットワーク(IBFAN)、国際ラクテーション・コンサルタント協会(ILCA)、ラ・レーチェ・リーグ・インターナショナル(LLLI)、国際連合児童基金(UNICEF、ユニセフ)、世界保健機関(WHO)、国際連合食糧農業機関(FAO)などの国際組織です。世界母乳育児週間を含めたWABAの活動は、スウェーデン国際開発協力庁(Sida)からの援助によって可能となっています。

WABAはいかなる形でも、母乳代用品、関連する器具や補食を生産する企業からの資金援助はお断りしています。WABAは世界母乳週間の参加者全員が、この倫理上の立場に従い、これに敬意を払ってくださるようお願いしています。

実例

このパンフレットで提起した問題は、どれも緊急に行動を起こす必要があります。

さまざまな団体が、どのように最適な乳児栄養(もちろん母乳育児も含む)を食糧安全保障や栄養計画の中に組み込んでいるのか、また、どのように緊急時に女性を支援し、日々の生計を改善させ持続可能な変革を起こすために地域の人材を活用しているのか、を紹介します。

実例 1 学習して行動を起こす:補完食を改善する

<http://www.thp.org/news/learning-action-improving-complementary-feeding/>

マラウイでは、慢性の栄養不良や低栄養が大きな問題です。それは食糧が安定的に手に入らないこと、不健康なライフスタイルや環境、ケアの不足状態が原因です。研究プロジェクトは「最初の1000日間」を主な焦点としています。その期間、生後6か月間母乳だけを与え、その後は6か月から23か月まで適切な補完食を与えることを目的としています。こうした実践を改善することで、急性栄養障害や低栄養を回避し、子どもたちは適切な発達を遂げることが保障されます。

子どもの人生の「最初の1000日間」によりよい栄養を与えることを家族や養育者が実践できるような、栄養における教育が必要とされています。農業従事者に食糧安全保障について教育することと同時に、養育者に対し、適切な栄養と最良の栄養法についてトレーニングをすることが、この研究における介入です。

ハンガー・プロジェクト(飢餓撲滅プロジェクト)で学んだことをどのように応用できるでしょうか?

1. 母乳育児を続けると同時に栄養をできるだけ十分に補完するために、地元で手に入る食べ物を使いましょう。また、いつもの食糧

が季節はすれで手に入らない場合の代用品について教育しましょう。

2. 地域のコミュニティに対し、食事や間食の量や月齢・年齢相応な内容について教育しましょう。とりわけ、親が月齢・年齢の高い子どもたちのための食事などを今さら必要ないと考えたとしても、この時期に栄養をきちんと摂取することは大切です。ですから、栄養強化した補完食を子どもたちに食べさせることを促すよう教育しましょう。
3. 家族内の複雑な力関係を考慮しましょう。家族全員(とりわけ祖母)に食について教えましょう。食は、性別、世代を超えて、また、世帯が分かれていっても受け継がれます。
4. 健康と栄養教育に呼応して、栄養豊富な旬の農作物を栽培する支援と教育をすることは、家族が1年中栄養価のある食べ物を調理することにつながります。レシピや料理教室を提供することでも、健康を増進し、栄養価のある食事を料理する自信をつけることができるでしょう。

実例 2 災害が起きたときに母乳で育てている母親を支援する

<https://www.worldvision.org/gender-equality-news-stories/support-breastfeeding-moms-emergencies>

2013年にフィリピンに台風ハイエン(平成25年台風第30号)が直撃した後、多くの母親たちが「あまりにストレスが高くて母乳育児ができないので、代わりに赤ちゃんに水を飲ませて静かにさせた」と、ワールド・ヴィジョンのスタッフに話しました。必須な栄養知識がなく、赤ちゃんたちが下痢による栄養不良のリスクをかかえたのです。こうした弱い立場の親には、支援と教育を受けられる安全な場が必要でした。

女性たちが安心して授乳できるスペース

「女性と子どもたちが保護されプライバシーが守られ、ある程度ふつうに過ごせる場があることはとても重要です」と、ワールド・ヴィジョンの児童保護専門官であるWeihui Wangは言います。

台風ハイエンや2015年のネパール地震のように避難生活が長期に渡った場合でも、授乳中の母親のためのプログラムの一環として、避難しながら集える静かな場所が提供されました。

4人の母親でもあるMyrnalは、台風ハイエンの直撃の後、いちばん年少のMary Roseをそうしたスペースに連れていくことができ、ほっとできたと言っています。「ここに来るとMary Roseも私もリラックスできます。そして自分の問題や不安を忘れることができるのです」とMyrnalは言います。「それから、ほかのママたちから多くのことも学びました」

善意の援助が害を及ぼすこともある

Minnie Portalesによれば、災害など緊急なことが起きると、善意の人々は、真っ先に何より乳児用ミルクを寄付しがります。でも、無料で多量のミルクが配布されると、適切な支援があれば継続できるはずの母乳育児を阻害するという、意図しない悪影響をもたらしかねません。

実例 3 ペルーでは、先住民の保健推進員が、コミュニティに働きかけ栄養不良を減らすことに成功している。

<http://www.thp.org/news/peru-indigenous-promoters-work-communities-successfully-reduce-malnutrition/>

ペルーの26人の先住民の保健推進員(うち7人は女性)は、持続可能な変革を起こすリーダーになるため、率先して行動する輝かしい手本として、コミュニティで活動しています。

ジェンダーの視点に基づくアプローチ、自己主張、自尊感情により、リーダーシップのスキルを改善するために常日頃から活動しているこのボランティアグループは、先住民Shawiのコミュニティに真の開発をもたらすという動機があります。ハンガー・プロジェクトのペルー支部が、Chirapaq(ペルーの先住民の文化センター)を通じてShawiのコミュニティと協働しています。

男女15人の保健推進員は常日頃からコミュニティを訪問し、気候変動に合わせた最良の農業実践について、教えています。さらに保健推進員は女性たちに子どもの健康、衛生、食習慣を改善する健康的な方法も教えています。

特に3歳未満のShawiの子どもたちに焦点を当てています。ここでは、具体的に、いろいろな食品群から食べることや生後6か月間は母乳だけで育てるといった考え方を紹介しています。

こうした教訓が、ペルーの8つのShawiコミュニティにおける乳児の慢性栄養障害を減らすことにつながってきました。

謝辞

ACKNOWLEDGEMENTS: WABA would like to thank the following

Contributors : Lucy Sullivan, Rafael Perez-Escamilla and Ted Greiner
Reviewers : Anne Batterjee, Anwar Fazal, Betty Sterken, David Clark, Elien Rouw, Frenny Jowi, Hiroko Hongo, Hussein Tarimo, Irma Chavarria de Maza, Irum Taqi, Jennifer Mourin, Johanna Bergerman, JP Dadhich, Kathy Parry, Laurence Grummer Strawn, Lee Claassen, Maryse Arendt, Michele Griswold, Paige Hall Smith, Prashant Gangal, Regina Da Silva, Rufaro Madzima, Rukhsana Haider, Taru Jindal and Zaharah Sulaiman

Editorial team : Amal Omer-Salim, Nisha Kumaravel, Pei Ching Chuah

Advisor : Felicity Savage
Designer : C-Square Sdn Bhd
Printer : Jutaprint, Penang
Funder : Swedish International Development Cooperation Agency (Sida)
Case studies : The Hunger Project and World Vision

行 動

どこにいても、「いのちの礎^{いしづえ}」として母乳育児に関して情報提供し、しっかり揺るぎのないものとし、協働し、啓発することができます。行動の実例を示します。参考にしてください。



情報提供する

- 特に弱い立場の人にとっての人工栄養のリスクと不利益について認識を高める
- 最適な母乳育児の生涯にわたる効果についてほかの人に知らせる
- カーボン・フットプリント*を減らす方法として母乳育児を推進する

【訳注】商品の一生(原料調達から廃棄・リサイクル)に排出される温室効果ガスの総量を二酸化炭素換算した量。例えば、1.9リットルのオレンジジュース1パックは、1.7キロの二酸化炭素に相当する温室効果ガスを排出すると見なされる。女性は母乳をカーボン・フットプリント0(ゼロ)で何百リットルも製造できる。(『母乳育児のポリティクス』メディカ出版、p.426)

- 母乳で育てないことの世帯や国にとっての損失について話し合う



揺るぎないものとする

- 過体重や肥満対策のプログラムの中に母乳だけで育てることの保護・推進・支援を含める
- 農林水産省などの省庁に対し、食糧安全保障は最適な母乳育児を保証することが第一歩であることを伝える
- 関連するすべての専門分野において、学部や大学院のカリキュラムに母乳育児を組み入れる
- 母親・新生児・児童・思春期の健康と発達に焦点をあてているプログラムに母乳育児を導入する
- 2017年に国連の団体などで作成した『災害時における乳幼児栄養の管理方針(IFEコアグループ制作)』(『災害時における乳幼児の栄養:災害救援スタッフと管理者のための活動の手引き』*の改訂版)をすべての災害援助活動に確実に適用させるようにする

【訳注】NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会(JALC)翻訳・発行。JALCのオフィシャルサイトからダウンロード可能。



協働する

- 栄養、飢餓、食糧安全保障、食糧援助、環境、気候変動、貧困撲滅問題について活動をしている団体と協働する
- 変化を起こすために若者を巻き込んで新しいアプローチを開発する
- 男性など、家族のサポートをする人々を巻き込んで、家族の世話や家事を分担してもらう
- 母親のために「温かい支援の輪」を広げるため、専門家と母乳育児に関連する非専門家の人々で多職種のチームを組めるよう能力を強化する



啓発する

- 「赤ちゃんにやさしい病院運動」と、母乳で育てている母親の相談に乗り支援するコミュニティのプログラムを推進する
- 最小限の水準として、国際労働機関(ILO)の母性保護条約を基にした有給の母性・親の保護法を制定する
- 「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」と世界保健総会の関連決議を完全に履行しモニタリングする
- 乳児用ミルクの生産・流通・消費の連続したプロセスが、環境にどう影響を及ぼすかモニタリングする
- あらゆるレベルで、母乳育児プログラムに対してもっと財源が投資されるように権利を擁護する

より健康で豊かで持続可能な未来に向けて協働することができます

2018年の世界母乳育児週間のテーマは、「母乳育児：いのちの礎^{いしづえ}」です。最適な母乳育児はあらゆる種類の栄養不良を予防し、双方に生涯続く効果を及ぼす助けになります。危機的状況にあっても母乳育児は食糧安全保障がしっかりできるという点で、気候に左右されない賢い選択なのです。母乳育児を保護・推進・支援することは、地球および地球上の人類の健康にとって非常に重要です。母乳育児は子どもの健康的な発達の要であるだけでなく、国の発展の礎^{いしづえ}でもあります。母乳育児は人々の格差を是正し、貧困の連鎖を絶ち切る助けになります。

母乳育児がうまくいくためにはチームによる努力を必要とします。保健医療、コミュニティ、職場、地域の行政を含め、さまざまな関係者が協働することで、母乳で育てる母親への「温かい支

援の輪」が作り出せます。「温かい支援の輪」を通し、一貫性のある情報と適切な照会制度があることで、母子が確実に継続した支援とスキルの高い援助を受けることになります。

WABAは、マレーシアのペナンで、母乳育児にやさしいコミュニティを作り出すプロジェクトをコーディネートしています。その最終目標は母乳育児にやさしいことを健康な都市や持続可能な開発に焦点を当てた運動と統合させることです。

あなたのいる場所がどこであっても母乳育児の「温かい支援の輪」を作り出すことができます。あなたのコミュニティでは「温かい支援の輪」の例がありますか？ あなたの話を聴かせてください。健康で豊かで持続可能な未来のために、一緒に礎^{いしづえ}を作っていきましょう。

翻訳・発行:母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan)

このパンフレットの翻訳・発行はWABAの許可により実現しました。日本語訳の転載、複写を希望される場合は、必ず事前に母乳育児支援ネットワークまでお問い合わせください。

問い合わせ先 infobsn1@gmail.com <https://www.bonyuikuji.net>

〈理事名〉●は翻訳担当

- 多田香苗(代表)、池田まこ、稲葉信子、入部博子、奥起久子、●小野田美都江、小竹広子、●瀬尾智子、瀬川雅史、高橋有紀子、楯亜紀子、田中奈美、西垣敏江、西田真奈美、萩原有希子、長谷川万由美、●引地千里、福原敦子、●本郷寛子、三浦孝子、●森あさよ、●涌谷桐子、柳澤美香、吉澤志麻、渡邊和香、渡辺孝紀

BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のみならず、社会福祉やメディア社会学、法律の専門家、および母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会をめざして活動を続けています。

入会希望の方は、次の事項を振込用紙の通信欄にご記入のうえ、年会費(3,000円)をご送金ください。お名前・ご住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス・所属や母乳育児とのかわりなど。

■会員特典

- 入会時に刊行物を進呈します。●毎年のパンフレット日本語訳を送付します。
 - 資料購入の際の割引制度があります。●会員向けメーリングリストに登録できます。
- 送金先: 郵便振替口座 00110-2-611471 加入者名 母乳育児支援ネットワーク